

米国・カナダ・オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

●米国：2024年10月11日公表ほか USDA Crop Production ●

9月の農業気象概況（2024年10月11日公表）

9月は、米国の大部分の州で気温が平年並みを上回った。米国中西部北方、大平原地域北部及びロッキー山地北部で9月の平均気温が平年並みを3.3℃以上上回った。米国中西部、米国北東部及び米国南西部では引き続き平年並みに比較して乾燥した状態であったが、カリフォルニア州北部、グレートベースン地域、米国中西部南方、ロッキー山地北部及び米国南部では、9月の降水量として少なくとも平年並みの2倍の降水量を記録した。主としてハリケーン・フランシーヌ及びハリケーン・ヘレンの影響により、米国南部の一部地域では、9月の降水量が254mm以上となった。フロリダ州パンハンドル地域（フロリダ州北西部のメキシコ湾に面した地域）の沿岸部では、9月の降水量が558mm以上となった。

乾燥インゲンマメ

2024作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、133万6,000tの見込みであり、この値は前回の予測に比べて4%の減少であるが、2023作物年度の実生産量に比べて27%の増加となっている。作付面積及び収穫面積の推定に当たっては、入手可能なすべてのデータを参照した。作付面積は、62万haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測と変わりなく、2023作物年度の実作付面積に比べて33%の増加である。収穫面積は、60万2,000haとなる見込みであり、この値は8月時点での予測と変わりなく、2023作物年度の実収穫面積に比べて32%の増加である。米国全体の平均単収（単位面積当たり収穫量）は、2,220kg/haの見込みであり、この値は前回の予測に比べて71kg/haの減少であるが、2023作物年度に比べて95kg/haの減少となっている。

2024作物年度から、カリフォルニア州及びワイオミング州では乾燥インゲンマメの生産の推定が行われていない。

表1 米国の乾燥インゲンマメ等の生産見通し(2023年及び2024年)

作物名	作付面積 (ha)	作付面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収穫面積 (ha)	単収 (t/ha)	単収 (t/ha)	生産量 (t)	生産量 (t)
	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
ヒヨコマメ	150,710	203,960	145,360	201,090	1.47	1.38	214,190	278,140
乾燥インゲンマメ	477,530	619,990	468,190	602,380	2.32	2.22	1,084,540	1,335,740
乾燥エンドウ	390,930	399,830	380,810	383,240	2.15	2.28	820,370	874,440
レンズマメ	220,960	378,790	211,650	364,220	1.23	1.19	260,450	432,640

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2024年10月12日付けで公表。
メートル法による米国の2023作物年度及び2024作物年度(集計継続中)の作付面積、収穫面積、単収及び生産量。
データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。
現行年度の推定は、2024作物年度全期間のものである。

表2 米国の乾燥インゲンマメの収穫面積、単収及び生産量(2023年及び2024年)

州名	収穫面積(ha) 2023年度	収穫面積(ha) 2024年度	単収(t/ha) 1/ 2023年度	単収(t/ha) 1/ 2024年度	生産量(t) 1/ 2023年度	生産量(t) 1/ 2024年度
カリフォルニア州 2/	6,475	(NA)	2.4	(NA)	15,240	(NA)
コロラド州	12,141	19,830	2.0	2.2	24,630	44,452
アイダホ州	14,164	17,806	2.7	2.7	38,918	47,899
ミシガン州	84,175	100,362	2.7	2.9	229,789	292,476
ミネソタ州	83,770	110,074	2.7	2.2	228,156	246,754
ネブラスカ州	37,231	48,967	2.4	2.4	89,176	115,257
ノースダコタ州	212,460	287,327	1.9	1.8	405,466	531,383
ワシントン州	12,950	18,211	3.1	3.2	39,598	57,515
ワイオミング州 2/	5,261	(NA)	2.6	(NA)	13,562	(NA)
米国全体	468,190	602,380	2.3	2.2	1,084,540	1,335,740

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2024年10月11日付けで公表。

2023作物年度及び2024作物年度(2024年10月1日現在の予測)。

園芸種子用のインゲンマメ及びヒヨコマメを除く。

(NA) 未詳。

1/精製済みの重量を基準とする。

2/2024作物年度から、カリフォルニア州及びワイオミング州では乾燥インゲンマメの生産の推定が行われていない。

表3 米国のヒヨコマメの州別及び銘柄別作付面積の推移(2023年及び2024年)

粒及び州名	作付面積(ha)		収穫面積(ha)	
	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度 1/
小粒ヒヨコマメ 2/				
カリフォルニア州 3/	(D)	(NA)	(D)	(NA)
アイダホ州		9,308	14,973	9,308
モンタナ州		16,592	19,830	14,164
ノースダコタ州	(D)		6,070	(D)
ワシントン州		13,355	15,783	13,355
その他の州 4/		3,399	-	3,237
米国全体		42,654	56,656	39,659
大粒ヒヨコマメ 5/				
カリフォルニア州 3/	(D)	(NA)	(D)	(NA)
アイダホ州		19,830	23,876	19,020
モンタナ州		53,823	69,606	52,609
ノースダコタ州	(D)		12,140	(D)
ワシントン州		27,114	41,683	27,114
その他の州 4/		7,284	-	7,284
米国全体		108,051	147,306	105,623
ヒヨコマメ全銘柄				
カリフォルニア州 3/		1,781	(NA)	1,619
アイダホ州		29,137	38,850	27,923
モンタナ州		70,415	89,436	66,773
ノースダコタ州		8,903	18,211	8,903
ワシントン州		40,469	57,465	40,064
米国全体		150,704	203,961	145,282

(D) 個別の営農組織のデータの開示を避けるために公表せず。

(NA) 未詳。

1/推定。

2/小粒ヒヨコマメは、7.9mmより小さいヒヨコマメ。

3/2024作物年度には推定が行われていない。

4/上記の理由で公表しないデータを含む。

5/大粒ヒヨコマメは、7.9mmより大きいヒヨコマメ。

生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2024年9月12日付けで公表。

以前に公表された作付面積及び収穫面積についての更新データを含む。

表4 米国の乾燥エンドウの州別の収穫面積、単収及び生産量
(2023年及び2024年9月1日現在の推定値)

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
アイダホ州	7,284	4,047	1.8	2.4	13,154	9,525
モンタナ州	230,671	228,647	2.0	2.1	449,872	484,391
ネブラスカ州	7,689	9,712	2.4	2.2	18,551	21,318
ノースダコタ州	105,623	121,406	2.6	2.8	272,291	336,111
サウスダコタ州 1/	4,856	(NA)	2.4	(NA)	11,430	(NA)
ワシントン州	24,686	19,425	2.2	1.2	55,066	23,087
米国全体	380,809	383,237	2.2	2.3	820,367	874,435

(NA) 未詳。
1/2024作物年度には、推定が行われていない。
生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2024年9月12日付で公表。
米国の乾燥エンドウ収穫面積、単収及び生産量：2023作物年度及び2024作物年度(2024年9月1日現在の予測)。
2023作物年度については、リンクルドシードビー及びオーストリアンウィンタービーを含む。2024作物年度については、リンクルドシードビー及びオーストリアンウィンタービーを含まない。

表5 米国のレンズマメの州別の収穫面積、単収及び生産量
(2023年及び2024年9月1日現在の推定値)

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度	2023年度	2024年度
アイダホ州 1/	6,880	(NA)	0.8	(NA)	8,391	(NA)
モンタナ州	150,948	279,233	0.8	0.9	184,430	319,238
ノースダコタ州	36,017	64,750	0.7	0.7	49,668	90,718
ワシントン州	17,806	20,234	1.0	0.9	17,962	22,679
米国全体	211,651	364,217	0.8	0.8	260,452	432,636

(NA) 未詳。
1/ 2024作物年度には、推定が行われていない。
生産量：米国農務省(USDA)、農業統計委員会、米国農業統計局(NASS)から、2024年9月12日付で公表。
米国のレンズマメ収穫面積、単収及び生産量：2023作物年度及び2024作物年度(2024年9月1日現在の予測)。

●カナダ：2024年9月25日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops ●

本報告書は、8月に公表されたカナダ農業食料省（AAFC）の2023/24作物年度及び2024/25作物年度の生産見通し報告書を、2024年9月18日までに入手できた情報に基づいて更新するものである。本報告書はカナダ統計局から改訂・公表された2022/23作物年度及び2023/24作物年度の供給及び需要に関するデータを取り入れて作成している。カナダでは大部分の作物については作物年度が8月1日に始まり7月31日に終わるが、トウモロコシ及び大豆については作物年度が9月1日に始まり8月31日に終わる。ロシアのウクライナ侵攻及びその他の地政学上の懸念により、世界の穀物市場は引き続き通常よりも不確実な状態にある。

乾燥エンドウ

2023/24作物年度のカナダの乾燥エンドウ輸出量は、中国及びバングラデシュへの輸出量の減少に加えて、米国からの需要が低下したことにより、2022/23作物年度の水準に比べて僅かに減少して245万tとなった。このよう

な減少分の一部は、インドが乾燥エンドウの輸入市場として戻ってきたことで埋め合わせられた。国内利用量は、前年度に比べて減少した。乾燥エンドウの平均価格は、2022/23作物年度に比べて僅かに上昇して460ドル/tとなっており、これは世界的な供給量の減少及びカナダの期末在庫量の減少によるものである。

2024/25作物年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC（カナダ統計局）の推定によれば、主として単収の向上により、2023/24作物年度に比べて21%増加して320万tとなる見込みである。サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の55%、アルバータ州が38%をそれぞれ占めており、残りはマニトバ州、ブリティッシュコロンビア州及びカナダ東部で生産されている。生産量が増加したにも関わらず、総供給量の増加は20万tに留まっているが、これは期初在庫量が減少したことによるものである。輸出量は減少して240万tとなる見込みであり、中国、米国及びインドが引き続きカナダ産乾燥エンドウの輸出先の上位を占めている。期末在庫量は、大幅に増加すると予測されている。世界的な供給量が増加しており、カナダの期末在庫量が増加していることから、平均価格は、2023/24作物年度に比べて低下して375ドル/tとなると見込まれている。

レンズマメ

2023/24作物年度のレンズマメ輸出量は、前作物年度に比べて25%減少して165万tとなる見込みである。この輸出量のうち100万tが赤色レンズマメであり、緑色レンズマメが65万tを占めている。主要な輸出市場は、トルコ、インド及びアラブ首長国連邦であった。国内総利用量は前作物年度から増加して28万tであった。期末在庫量は、減少して18万tを下回った。カナダ産レンズマメの平均価格は、上昇して過去最高記録の1,000ドル/tとなった。第1等級の大粒緑色レンズマメの価格は、第1等級の赤色レンズマメの価格を787ドル/t上回っており、この値は作物年度最高記録に達している。

2024/25作物年度のレンズマメ生産量は、80万t近く増加して260万tとなったが、これは単収の向上と作付面積の増加によるものである。州別にみると、サスカチュワン州が全体の85%、アルバータ州が15%を占める見込みである。生産量が大きく増加したことにより、総供給量は前作物年度に比べて35%増加して280万tとなる見込みである。輸出量は、増加して210万tとなると予測

されている。期末在庫量は、大幅に増加して48万tとなるものと予測されている。期末在庫量が増加しており、世界的な供給増加が見込まれていることから、全等級のレンズマメの平均価格は、2023/24作物年度に比べて大きく低下して、780ドル/tとなる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2023/24作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ輸出量は、2022/23作物年度に比べて増加して過去最高記録の40万8,000tとなる見込みである。EU諸国及び米国がカナダ産乾燥インゲンマメの輸出市場の上位2カ国であり、これより少ない量が日本及びメキシコに輸出されている。北米全体の生産量の減少により、2023/24作物年度のカナダ産乾燥インゲンマメの価格を過去最高記録に押し上げている。

2024/25作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は、単収が低下したにも関わらず、作付面積が増加したことから、4%増加して35万2,000tとなると予測されている。州別にみると、マニトバ州が乾燥インゲンマメ生産量全体の38%を占めており、オンタリオ州が37%、アルバータ州が24%を占めている。期初在庫量が減少したことから、総供給量は9%減少する見込みである。輸出量は、前作物年度に比べて減少する見込みである。しかし、期末在庫量は増加する見込みである。北米での供給量が増加すると予測されていることから、カナダ産乾燥インゲンマメの平均価格は低下して、1,100ドル/tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2023/24作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、前作物年度に比べて減少して、18万7,000tとなった。米国及びEU諸国からの需要の低下が輸出量減少の要因となっている。供給量の大幅な減少及び輸出量の僅かな減少により、期末在庫量は前作物年度に比べて大幅に減少した。ヒヨコマメの平均価格は上昇して、1,005ドル/tとなった。

2024/25作物年度のヒヨコマメ生産量は、作付面積の大幅な増加と単収が平年並みを上回ったことで、前作物年度の2倍以上の32万7,000tとなる見込みである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の88%を占め、アルバータ州が12%を占めている。期初在庫量が減少したことから、

総供給量は生産量ほど増加せず、31%の増加で40万tとなる見込みである。輸出量は、2023/24作物年度と同様の見込みであるが、供給量が増加したことから期末在庫量は大幅に増加するものと予測されている。世界的にヒヨコマメの供給量が増加するとの思惑があることから、平均価格は前作物年度に比べて低下して780ドル/tとなる見込みである。

表6 カナダの豆類作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2022-2023	2023-2024 [f]	2024-2025 [f]	2022-2023	2023-2024 [f]	2024-2025 [f]	2022-2023	2023-2024 [f]	2024-2025 [f]	2022-2023	2023-2024 [f]	2024-2025 [f]
作付面積 (1,000ha)	1,363	1,233	1,300	1,749	1,485	1,704	120	129	161	95	128	194
収穫面積 (1,000ha)	1,348	1,200	1,268	1,715	1,460	1,677	117	129	149	95	127	189
単収 (t/ha)	2.54	2.17	2.49	1.36	1.23	1.55	2.67	2.63	2.36	1.54	1.25	1.73
生産量 (1,000t)	3,423	2,609	3,160	2,331	1,801	2,593	313	339	352	146	159	327
輸入量 (1,000t) [b]	35	139	30	87	92	75	70	70	75	42	48	45
総供給量 (1,000t)	3,797	3,298	3,538	2,642	2,104	2,847	523	489	447	364	301	394
輸出量 (1,000t) [b]	2,564	2,454	2,400	2,209	1,648	2,100	371	408	355	198	187	190
国内総利用量 (1,000t) [c]	684	497	638	222	278	272	72	61	62	73	92	89
期末在庫量 (1,000t)	550	348	500	211	179	475	80	20	30	93	22	115
在庫量/利用量 (%)	17	12	16	9	9	2	18	4	7	34	8	41
平均価格 (ドル/t) [d]	440	460	375	820	1000	780	1165	1215	1,100	1000	1005	780

[a] 作物年度は8月から7月まで。

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量＝食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

[f] AAFC (カナダ農業食料省) による推定。ただし、2023/24作物年度の作付面積、単収及び生産量はTC (カナダ統計局) の推定。

典拠: カナダ統計局 (STC) 及びカナダ食料農業省 (AAFC)。

● オーストラリア：2024年9月3日公表 ABARES Australian crop report

概観

2024/25作物年度のオーストラリアの冬作の生産量は、17%増加して5,520万tとなる見込みである。この値は2023/24作物年度までの10年間の平均値の4,700万tを17%上回っており、予測通りになれば記録史上5番目の生産量となる見込みである。生産量は全般的に増加する見込みであるが、オーストラリア全般としては生育期間中の条件にばらつきがあり、生産見通しは州によって差が生じている。

冬作の生産量は、ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州では増加して、過去最高記録に近い水準に達するものと予測されている。冬作の生育期間の始めに良好な生育条件に恵まれ、大部分の生産地域で平年並みを上回る降水量を得て春季に入っていくことができるので、単収が高くなる可能性が強まっている。

西オーストラリア州では、生育条件が改善したことから生産見通しが向上

いており、冬作の生産量が平年並みを上回るものと見込まれている。生育期間の始めには乾燥した状態であったが、特に州の北部及び西部で冬季に時宜を得た降雨があったので冬作の生育は順調である。

これと対照的に南オーストラリア州及びヴィクトリア州では生産見通しが引き下げられている。南オーストラリア州の主要生産地域及びヴィクトリア州の一部では、作付時期及び生育期間の始めに乾燥が続いた。これらの地域では生育期間中を通じて乾燥が続き、水分不足から冬作物の単収は平年並みを下回る見込みである。

オーストラリア気象庁が2024年8月22日に公表した最新の3か月間気象予測（9月から11月）によれば、オーストラリアの大部分の生産地域の春季の降水量は、平年並みを下回る地域があれば、平年並みを上回る地域もあるという見込みとなっている。ニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州では春季の降水量が平年並みから平年並みを上回る可能性が高い。西オーストラリア州を除くすべての州の生産地域では、春季の日中の気温が平年並みを上回る見込みである。平年並みまたは平年並みを上回る土壌水分含有量に恵まれている大部分の生産地域では、冬作の成否を分ける重要な時期にも十分な降水量に恵まれる見込みである。しかし、春季の気温が平年並みを上回る可能性が高まっていることから、すでに水分不足となっている冬作物については、不利な生育条件が生じる可能性がある。特に南オーストラリア州、ヴィクトリア州及びニューサウスウェールズ州南部といった生産地域では、8月の時点で作物が根を張る深さの土壌水分含有量が平年並みを下回っていたことから、生産見通しの低下の懸念がある。

オーストラリアの2024/25作物年度の冬作全体の作物生産量の見通しは、2024年6月の時点に比べて7%増加する方向で修正された。これは、ニューサウスウェールズ州、クイーンズランド州及び西オーストラリア州で作柄が改善したことで、南オーストラリア州及びヴィクトリア州での生産量の減少を埋め合わせて余りあるものと予測されていることによるものである。すべての主要な冬作物について、生産量の予測は2024年6月の時点に比べて上方に修正されている。

2024/25作物年度のレンズマメ生産量は、7%増加して170万tとなる見込みである。この値は、2023/24作物年度までの10年間の平均値の2倍以上であり、レンズマメの作付面積の増加により単収の低下が埋め合わされて余りあると

見込まれていることによるものである。

2024/25作物年度のヒヨコマメ生産量は、171%増加して130万tとなる見込みであり、この値は2023/24作物年度までの10年間の平均値を70%上回っている。これは、ヒヨコマメによる利益を期待してニューサウスウェールズ州及びクイーンズランド州で作付面積が大幅に増加し、生育条件に恵まれて高い単収が見込まれていることによるものである。予測通りとなればヒヨコマメの収穫量として記録史上2番目の水準となる見込みである。

表7 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名		2021-22	2022-23 s	2023-24 s	2024-25 f
ヒヨコマメ	作付面積(1,000ha)	615.8	397.5	409.0	768.5
	生産量(1,000t)	1,062.3	541.0	491.2	1,333.0
ソラマメ	作付面積(1,000ha)	287.5	305.0	264.1	258.5
	生産量(1,000t)	646.2	635.0	553.9	510.5
エンドウマメ	作付面積(1,000ha)	192.0	198.0	192.0	187.0
	生産量(1,000t)	261.1	313.8	228.0	229.0
レンズマメ	作付面積(1,000ha)	575.2	692.3	790.0	927.1
	生産量(1,000t)	999.5	1,688.8	1,567.9	1,685.4
ルーピン	作付面積(1,000ha)	497.1	536.4	441.0	454.5
	生産量(1,000t)	957.5	1,100.8	565.8	644.0

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 作物年度は、4月1日から3月31日までの12か月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積又は放棄された面積を含む。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)。ABS(オーストラリア統計局)。Pulse Australia

表8 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

豆類 d	2017-18 (1,000t)	2018-19 (1,000t)	2019-20 (1,000t)	2020-21 (1,000t)	2021-22 (1,000t)	2022-23s (1,000t)
生産量						
ルーピン	714	799	591	866	958	1,101
エンドウマメ	317	160	210	399	261	314
ヒヨコマメ	998	205	235	876	1062	541
見かけ上の国内利用量 c						
ルーピン	258	526	376	406	400	268
エンドウマメ	189	87	165	275	66	186
ヒヨコマメ e	1	1	1	1	1	1
輸出量						
ルーピン	456	273	215	459	557	833
エンドウマメ	130	75	48	126	196	129
ヒヨコマメ	724	371	349	879	594	725

c: 生産量に輸入量を加えた値から輸出量を差し引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を差し引いて算出した値。

d: 豆類の市場年度は11月から10月である。

e: 見かけ上の国内利用量は、輸出量が生産量と在庫量を合計した値を上回った場合には、1とする。

注: 市場年度に基づく輸出量のデータが、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量のデータと一致しない場合がある。ABSの農業データ収集方法の変更により、1986-87年度から1990-91年度までは推定生産額20,000ドル以上の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、1991-92年度から1992-93年度までは22,500ドル以上、1993-94年度から2014-15年度までは5,000ドル以上、2015-16年度以降は推定生産額40,000ドル以上のEVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)。

表9 オーストラリアの州別生産量

冬作物	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)	作付面積 (1,000ha)	生産量 (1,000t)
ヒヨコマメ												
2022-23s	160.0	192.0	25.0	40.0	200.0	292.0	8.0	10.0	4.5	7.0	0.0	0.0
2023-24s	150.0	165.0	25.0	30.0	220.0	280.0	10.0	12.0	4.0	4.2	0.0	0.0
2024-25f	350.0	650.0	24.0	26.0	380.0	640.0	10.0	11.5	4.5	5.5	0.0	0.0
2023-24 作物年度 までの5年 間の平均	198.9	290.4	30.8	34.8	219.6	297.1	11.5	12.8	6.8	6.0	0.0	0.0
エンドウマメ												
2022-23s	45.0	47.3	40.0	76.6	0.0	0.0	75.0	120.0	38.0	70.0	0.0	0.0
2023-24s	40.0	40.0	45.0	60.0	0.0	0.0	75.0	86.0	32.0	42.0	0.0	0.0
2024-25f	44.0	45.0	40.0	58.0	0.0	0.0	70.0	78.0	33.0	48.0	0.0	0.0
2023-24 作物年度 までの5年 間の平均	35.8	39.7	55.0	82.8	0.0	0.0	83.6	103.9	41.8	56.1	0.0	0.0
レンズマメ												
2022-23s	15.0	15.8	345.0	750.0	1.3	1.5	320.0	900.0	11.0	21.5	0.0	0.0
2023-24s	10.0	15.0	380.0	780.0	0.5	0.4	390.0	760.0	9.5	12.5	0.0	0.0
2024-25f	16.0	20.0	430.0	790.0	1.3	1.4	470.0	860.0	9.8	14.0	0.0	0.0
2023-24 作物年度 までの5年 間の平均	10.8	12.2	298.3	535.0	0.7	0.7	272.0	562.8	12.4	16.4	0.0	0.0
ルーピン												
2022-23s	50.0	70.0	40.0	48.0	1.4	2.8	45.0	55.0	400.0	925.0	0.0	0.0
2023-24s	45.0	60.0	40.0	41.0	0.9	1.4	40.0	48.0	315.0	415.0	0.1	0.4
2024-25f	50.0	70.0	35.0	39.0	1.5	3.0	38.0	42.0	330.0	490.0	0.0	0.0
2023-24 作物年度 までの5年 間の平均	57.7	81.7	39.5	42.9	1.0	1.5	45.4	54.8	404.9	634.9	0.1	0.5

f: ABARESによる予測。

s: ABARESによる推定。

注: 面積は作付面積であって、収穫に至った面積、飼料用として利用された面積または放棄された面積を含む。ABSの農業データ収集方法の変更により、1986-87年度から1990-91年度までは推定生産額20,000ドル以上の生産主体(EVAO)による生産量となっていたが、1991-92年度から1992-93年度までは22,500ドル以上、1993-94年度から2014-15年度までは5,000ドル以上、2015-16年度以降は推定生産額40,000ドル以上のEVAOによる生産量となっている。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)。

表10 オーストラリアの豆類価格の推移

作物名	2022	2023				2024	
	第4四半期 (豪ドル/t)	第1四半期 (豪ドル/t)	第2四半期 (豪ドル/t)	第3四半期 (豪ドル/t)	第4四半期 (豪ドル/t)	第1四半期 (豪ドル/t)	第2四半期 (豪ドル/t)
国内価格: ルーピン(クイナナ調べ)	308.3	329.2	356.7	386.9	430.0	482.3	565.4
国内価格: ヒヨコマメ(メルボルン調べ)	532.5	576.5	596.7	691.5	822.5	870.8	943.8
国内価格: エンドウマメ(メルボルン調べ)	518.8	548.4	521.8	485.2	517.0	536.8	578.2
輸出量: ヒヨコマメ b	786.1	811.4	769.4	663.3	839.2	965.3	1,018.9
輸出量: エンドウマメ b	717.9	576.6	629.4	539.4	684.8	657.4	596.1

b: 単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注: 第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学省)、ABS(オーストラリア統計局)、CMEグループ、国際穀物会議(IGC)、Jumbuk AG、米国農務省(USDA)。